

座り込み、長期戦か

水俣病新認定患者 テント小屋建て替え

を約束している。この場所は三十四年以來、水俣病患者家族や労働者がしばしば座り込んだところが今回の座り込みで「解放区」の色彩を強めている。

一日から水俣市のチツソ正門前で抗議の座り込みを続けている水俣病新認定患者十八人（熊本十六人、鹿児島二人）は二十三日夜、テント小屋をがっちりしたものに建て替え、長期戦の構えにはいった。これまでのテント小屋は七・二平方メートルほどのテントや毛布を張り合わせた程度のもだったが、二十三日には支援団体などが柱などの資材を持ち込み、基礎から造り替えた。

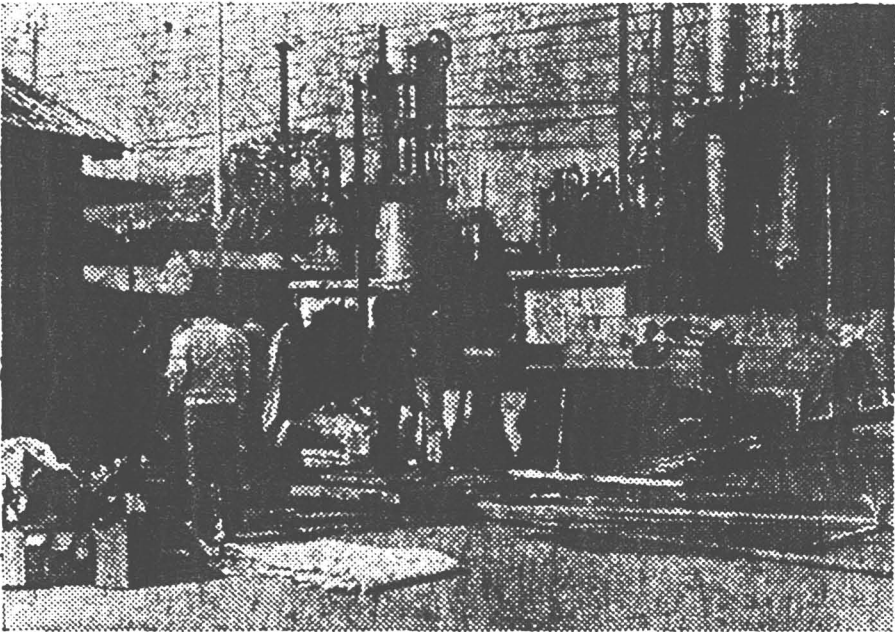
現場はチツソ正門の広場で、座り込み以來、正門の観音開きのとびらは大型車両が出入りするこ

い以外は閉ざされたままになっている。炊事道具などもとろい、犬もおともしている。全国からの支援カンパも「チツソ正門前〇〇様」で郵便局から届けられており、訪問者のための記入帳もある。現在船地獄で裁判中の患者家庭訴訟派も自主的な応援を決めており、現在

在のところが水俣病闘争の拠点となった形。

土地はチツソから子会社「二社」が従業員や客のための駐車場として借りているところだが、さきに来水したチツソ島田社長が、新認定患者とテントの中で面会した時、患者側に立ちのきを求めないこと

現場はチツソ正門の広場で、座り込み以來、正門の観音開きのとびらは大型車両が出入りするこ



テント小屋の建て替え作業をする新認定患者と支援者たち